

第1回

アイコンタクト ～目は口ほどにモノを言う～

認知症の方とコミュニケーションを図る時、介護者は単に言葉をかけるだけでなく、意識的に顔の表情や声の調子、話し方、態度などあらゆるものを使った対応が求められます。このため介護職は、「人格専門職」とも言われています。

認知症の方は、認知機能の低下や認識できる空間が狭くなるので、対応の中でも相手の目と目を合わせる「アイコンタクト」が、言葉抜きに生み出せるコミュニケーションとして、特に欠かせません。

介護職員がどんなに“やさしい言葉”を選んで認知症のご利用者に話しかけても、その人の方をきちんと見ていなかったり、職員表情が険しかったりしたら、そのご利用者にとっては、“やさしい言葉”とは受け取れません。

逆に「怒っているのでは？」と判断し、介護者が意図するものと違う意味で捉えてしまうこともあるのです。

「アイコンタクト」は、コミュニケーション手段の基本の1つとして、相手との関係を良好にする突破口となる大切な役割を果たしています。

皆さんも一度、意識して目と目を合わせてみてください、ゆっくりと微笑みかけながら。やがて相手も笑顔で応じてくれることでしょう。



文責：施設長 山本 忠弘（認知症介護指導者・介護福祉士・介護支援専門員）

フェイスブックもご覧
ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。
あわせてご覧下さい。



医療法人社団 三喜会
グループホーム・デイサービスセンター青葉台

〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045(981)6900 〈グループホーム〉

045(982)3200 〈デイサービスセンター〉